

ブラックロック世界好配当株式オープン
(愛称)世界の息吹

第 219 期末(2024 年 2 月 26 日)	
基準 価 額	14,011 円
純 資 産 総 額	57,055 百万円
第 214 期～第 219 期	
騰 落 率	12.0%
分 配 金 合 計	660 円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

追加型投信／海外／株式
交付運用報告書
第37作成期

第214期(2023年9月25日決算) 第215期(2023年10月25日決算)
第216期(2023年11月27日決算) 第217期(2023年12月25日決算)
第218期(2024年1月25日決算) 第219期(2024年2月26日決算)
作成対象期間(2023年8月26日～2024年2月26日)

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「ブラックロック世界好配当株式オープン」は、このたび、第37作成期の決算を行いました。
当ファンドは、ブラックロック・グループが運用する「BGIS グローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ」および「BGF USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド」への投資を通じて、日本を含む世界各国の配当利回りの高い株式に投資し、継続的な配当収入の確保を目指して運用を行います。当作成期につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、当作成期の運用経過についてご報告いたします。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

ブラックロック・ジャパン株式会社

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号
丸の内トラストタワー本館

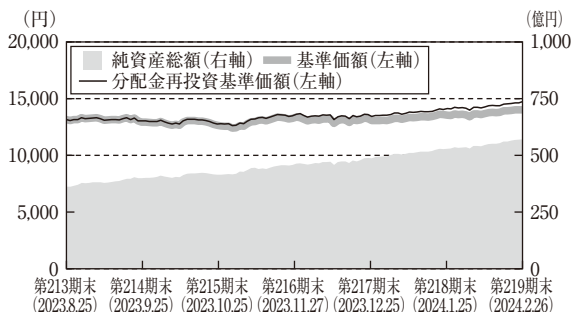
運用報告書に関するお問い合わせ先
電話番号:03-6703-4300
(受付時間 営業日の9:00～17:00)
ホームページアドレス

www.blackrock.com/jp/

- 当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記弊社ホームページの「ファンド・ETF情報」、「投資信託」から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 「運用報告書(全体版)」は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◇運用経過

■当作成期中の基準価額等の推移について(第37作成期:2023年8月26日~2024年2月26日)



第214期首:13,144円

第219期末:14,011円(既払分配金660円)

騰落率:12.0%(分配金再投資ベース)

- *分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- *分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- *分配金再投資基準価額は、前作成期末の基準価額に合わせて指数化しています。

■1万口当りの費用明細

項目	第214期~第219期 (2023.8.26~2024.2.26)		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	86	0.656	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は13,194円です。
(投信会社)	(44)	(0.333)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(40)	(0.306)	販売会社分は、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(2)	(0.016)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	1	0.007	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.000)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(印刷費用・監査費用等)	(1)	(0.005)	目論見書および運用報告書の作成・印刷費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用等の諸費用
(その他)	(0)	(0.002)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	87	0.662	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■基準価額の主な変動要因

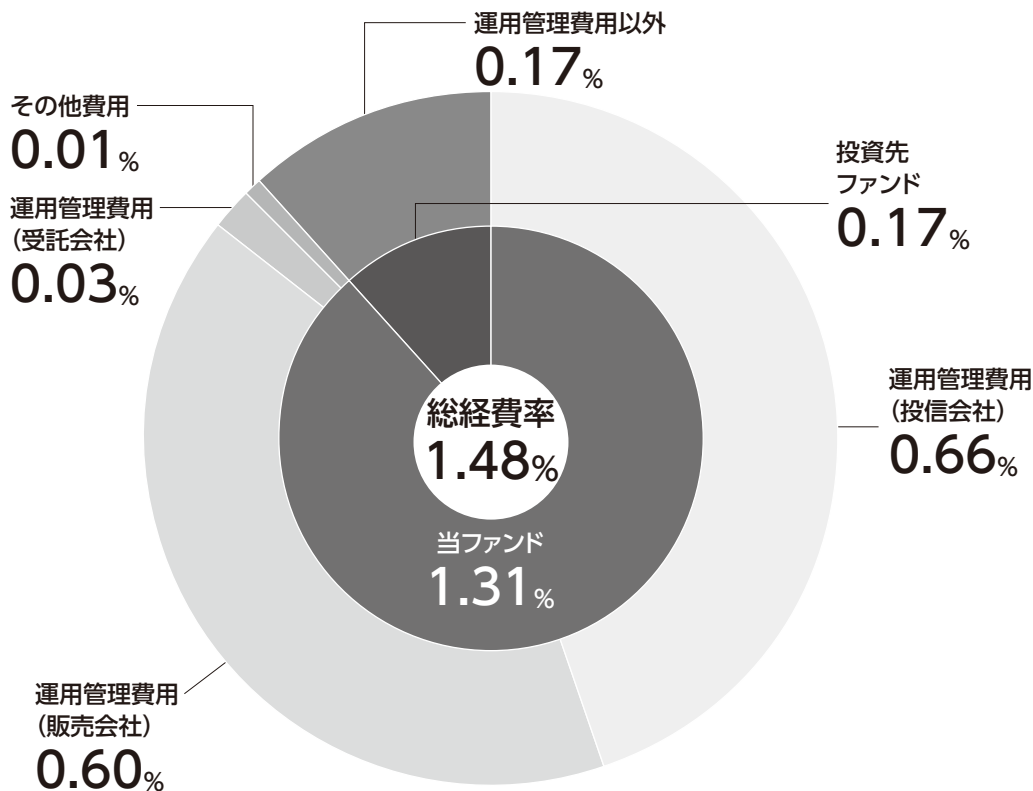
当作成期、当ファンドの基準価額の騰落率は+12.0%となりました。当ファンドの主要投資対象である「BGISグローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ」が上昇したことに加え、主要投資対象は米ドル建てであるため、当期、円安となったことも基準価額の上昇要因となりました。

■主要投資対象ファンドの当期間中の騰落率

組入ファンド	騰落率
BGIS グローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ	9.1%

(参考情報)

■総経費率



※当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.48%です。

総経費率(①+②+③)	1.48%
①当ファンドの費用の比率	1.31%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.00%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.17%

(注1)①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2)各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3)各比率は、年率換算した値です。

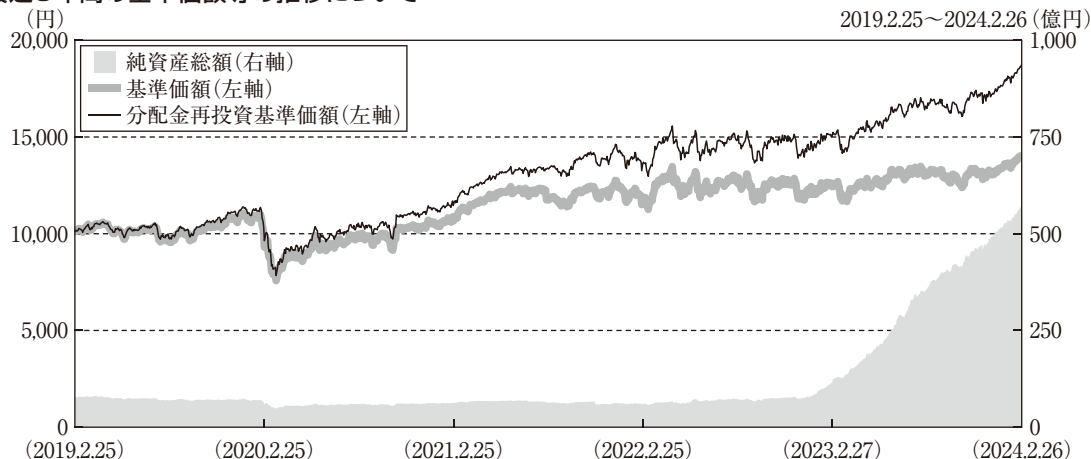
(注4)投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券です。

(注5)①の費用は、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6)①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7)上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

■最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、2019年2月25日の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2019年2月25日 期初	2020年2月25日 決算日	2021年2月25日 決算日	2022年2月25日 決算日	2023年2月27日 決算日	2024年2月26日 決算日
基準価額(分配落) (円)	10,106	10,811	10,729	11,504	12,429	14,011
期間分配金合計(税込み) (円)	—	360	360	830	600	1,320
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	—	10.8	3.1	14.9	13.4	24.8
純資産総額 (百万円)	7,699	6,938	6,243	5,848	11,555	57,055

(注) 当ファンドは、特定のベンチマークに連動する運用、あるいはそれを上回る運用を目指すものではありません。したがって当ファンドはベンチマークおよび参考指数を設定していません。

投資環境について

<世界市場概況>

当作成期、市場は弱気なセンチメントで始まりました。ボラティリティ上昇と金利上昇が重石となり、9月は株式市場にとっては厳しい月となりました。10月、市場は地政学上の不透明感の拡大と金利先高観を背景に3ヵ月連続で下落し、米10年国債利回りは5%を試す展開となりました。しかし、一転、11月は先進国のインフレが市場予想を下回り、各中央銀行が金融引き締めサイクルの終了を示唆したことなどから市場は大きく反転しました。米国では、引き続き底堅い経済データが示され、FOMC(米連邦公開市場委員会)で2024年の利下げ開始が示唆されたことを受け、S&P500指数は12月には約2年ぶりの高値を付けました。欧州では、インフレ鈍化が確認されたものの、欧州中央銀行(ECB)は引き続き、賃金上昇圧力が未だ根強いことから慎重な見方を維持しました。米国とは異なり、EUの政策当局は引締めの金融政策を維持する方針であり、引き続き利下げはまだ先であることを示唆しました。

2024年に入って株式市場は力強いスタートを切り、期末まで上昇基調が継続しました。米国においては、ソフトランディングへの期待の高まりとテクノロジー株が上昇を牽引しました。一方、英国では、予想外のインフレを受けて、投資家によるイングランド銀行(BOE)の利下げ期待が後退し、株式市場の重石となりました。

他の地域では、日本銀行(BoJ)が政策金利を維持し、イールド・カーブ・コントロールは柔軟化したものの撤廃は行いませんでした。日本では、持続的なインフレの兆候が表れてきており、株主にとっては好ましい企業改革が継続していくものと思われれます。一方、中国では経済が依然として軟調であり、中国人民銀行(PBOC)は、金融システムに流動性を供給し経済成長を底上げするために、預金準備率の引き下げを発表しました。

期を通じて見れば、株式市場は米国を中心に良好な企業業績発表が底支えし好調なパフォーマンスとなりましたが、予想を上回るインフレ指標やFRB(米連邦準備制度理事会)のスタンスの変化等により、やや不安定な動きとなりました。

ポートフォリオについて

当作成期、当ファンドは、主要投資対象である「BGIS グローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ」を高位に、「BGF USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド」を低位に組み入れた運用を行いました。

投資先ファンドにおける運用経過は以下の通りです。

<BGIS グローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ>

セクターレベルでは、通信サービス、生活必需品及び金融セクターへの配分を引き上げました。反対に、情報技術、ヘルスケア・セクターは配分を引き下げました。情報技術及び通信サービス・セクターでは、メディアテックを全売却した一方、メタを積み増しました。生活必需品セクターでは、ロリアルとディアジオを新規に組み入れました。ヘルスケア・セクターでは、好調なパフォーマンスであったエシロールックスオティカを利益確定により全売却しました。また、2024年業績見通しの下方修正懸念とモデルナとの契約内容の透明性欠如に対する懸念から、ロンザを全売却しました。加えて、メドトロニックも全売却しました。金融セクターではチャールズ・シュワブとマスターカードを新規に組み入れた一方、シンクロニー・ファイナンシャルを全売却しました。一般消費財セクターでは、同社の主要ブランドであるグッチの回復が遅れていることや、他のブランドも低迷していることに鑑み、ケーリングを売却しました。資本財セクターでは、利益確定によりファーガソンを全売却しました。また、アレジオンを新規に組み入れました。

期末時点では、資本財、生活必需品セクターなどの組入れを高位とした一方で、一般消費財、情報技術セクターなどの組入れを低位としています。また、地域別では、6割弱を北米株に、4割弱を欧州株に投資しています。その他の地域では、アジア新興国が最大の地域となっています。

(主なプラス要因)

- ・一般消費財セクターの銘柄選択、素材セクターの銘柄選択と組入低位、及び公益事業セクターの非保有がプラス寄与しました。
- ・メディアテックの組入高位がプラス寄与となりました。同社の在庫水準は大幅に改善しているほか、新たな主力商品である5G向けシステム・オン・チップ(SoC)が販売数量・平均販売価格ともに改善が見込まれ、スマートフォン関連事業の成長につながると見えます。
- ・テイラー・ウィンペイの組入高位もプラス寄与しました。年末に向けて利下げ期待が高まり、2024年には住宅ローン金利が低下し住宅販売件数が増加すると観測の広がりが見込まれました。

(主なマイナス要因)

- ・ 情報技術セクターにおける銘柄選択と組入低位、生活必需品セクターの銘柄選択と組入高位、及びヘルスケア・セクターにおける銘柄選択と組入高位がマイナス寄与しました。
- ・ エヌビディアの非保有がマイナス寄与しました。同社の株価は人工知能に対する期待の高まり等を背景に大幅に上昇しました。
- ・ ロンザの組入高位がマイナス寄与しました。9月の予想外のCEO退任後、10月の決算発表において2024年業績見通しの方修正を行ったことが嫌気されました。

<BGF USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド>

主に米ドル建ての短期の投資適格債に投資することで、トータル・リターンを最大化を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは、特定のベンチマークに連動する運用、あるいはそれを上回る運用を目指すものではありません。したがって当ファンドはベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金について

収益分配金は基準価額水準、市場動向等を勘案して、214期(1万口あたり110円)、215期(1万口あたり110円)、216期(1万口あたり110円)、217期(1万口あたり110円)、218期(1万口あたり110円)、219期(1万口あたり110円)とさせていただきます。留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行っております。

■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	第214期	第215期	第216期	第217期	第218期	第219期
	2023年8月26日 ～2023年9月25日	2023年9月26日 ～2023年10月25日	2023年10月26日 ～2023年11月27日	2023年11月28日 ～2023年12月25日	2023年12月26日 ～2024年1月25日	2024年1月26日 ～2024年2月26日
当期分配金(税込み)	110円	110円	110円	110円	110円	110円
対基準価額比率	0.84%	0.87%	0.82%	0.84%	0.81%	0.78%
当期の収益	-円	15円	110円	10円	110円	110円
当期の収益以外	110	94	-	99	-	-
翌期繰越分配対象額	7,278	7,184	7,568	7,469	7,799	8,266

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針について

引き続き主要投資対象ファンドである「BGIS グローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ」を高位に組入れる運用を行う方針です。

投資先ファンドにおける市場見直しおよび今後の運用方針は以下の通りです。

<BGIS グローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ>

2024年は、高金利環境が継続する中、市場のボラティ

リティは上昇しやすいと考えています。インフレは鈍化基調にあるものの、インフレの主な要因である底堅い労働市場と放漫な財政政策は継続しています。長期金利は高止まりしやすいと予想しており、株式市場における物色の変化に繋がるため、当戦略の様なアクティブ投資家にとっては豊富な投資機会が見込めると考えています。例えば、貸付条件の厳格化や家計の貯蓄の減少により、実質GDP成長率が鈍化傾向となる中では、真の価格競争力や十分に投資されたブランドを有する優良企業と、需要の鈍化や顧客による厳しい選別に対してよ

り脆弱な企業の間で、格差がますます広がると予想しています。

全体として見れば、当戦略の様な銘柄選択を重視する投資家にとっては豊富な投資機会が存在する市場環境となると考えています。足元、類似の特性を持つ銘柄であっても大きく異なる経済予想が織り込まれているケースが多く見られ、市場全般に大きなバリュエーション格差が見られています。引き続き、長期的な成長を重視しつつ、魅力的なバリュエーションで投資するために短期的な市場の歪みを活用する方針です。

投資に対する高い確信を得るための詳細な企業調査は、不安定な市場環境に対処し、銘柄固有の要因から生まれる投資機会を捉えるため、引き続き非常に重要です。また、トップ・ダウンの視点からだけでなく、セクター毎に格差を生み出す要因も引き続き検討する方針です。足元では、最終市場におけるエクスポージャー、価格競争力をもたらす事業上の優位性、財務レバレッジ比率等に特に着目しています。

優良企業は、不安定な環境下であっても、成長を実現することができると思っています。十分に投資されたブランド、価格競争力や知的財産がプロダクトやサービスを差別化し、収益性を向上させることができると考えます。引き続き、銘柄固有の投資テーマや構造的成長機会に注視していきます。また、株価のボラティリティの高まりも、バリュエーション格差拡大により当戦略のような長期の投資家には投資機会を提供してくれます。株式市場における格差の拡大が見られる中で、継続的にリターンをもたらすのは市場ベータではなく銘柄固有のアルファであると考えます。

魅力的なバリュエーションの優良銘柄への投資を重視する当戦略の規律ある運用プロセスによって、様々な環境下で良好なパフォーマンスを生み出すことができる、十分に分散されたポートフォリオを継続的に構築できるものと考えています。

<BGF USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド>

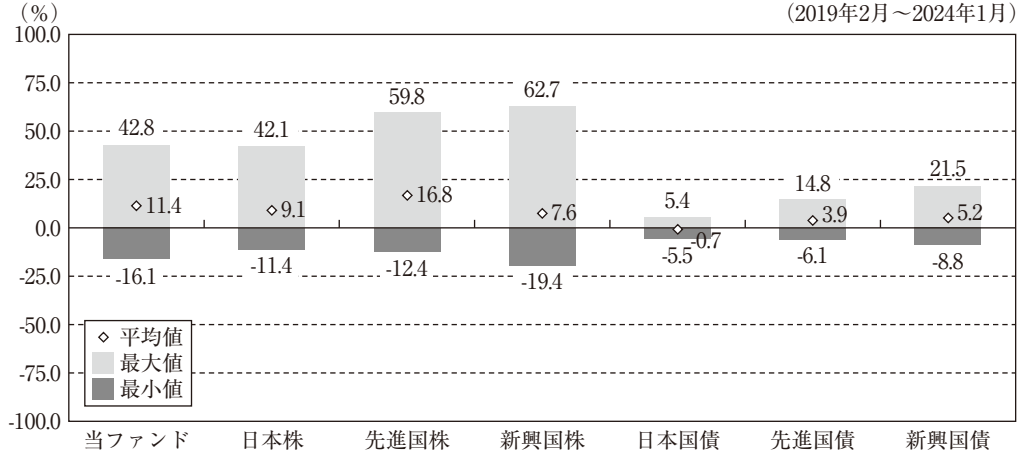
当ファンドは、引き続き主に米ドル建ての短期の投資適格債に投資することで、トータル・リターンの最大化を目指した運用を行う方針です。

◇当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	無期限です。(設定日：2005年9月28日)
決算日	毎月25日(ただし休業日の場合は翌営業日)
運用方針	<p>①主として「ブラックロック・グローバル・インベストメント・シリーズ グローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ クラスF受益証券(ルクセンブルグ籍証券投資信託)」および「ブラックロック・グローバル・ファンズ(ルクセンブルグ籍証券投資法人) USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド クラスX投資証券」(以下各々を「BGIS グローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ」および「BGF USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド」といいます。)への投資を通じて、継続的な配当収入の確保を目指して運用を行います。</p> <p>②外貨建資産については、原則為替ヘッジを行いません。</p>
主要運用対象	<p>当ファンドは、ブラックロック・グループが運用する「BGIS グローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ」および「BGF USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド」に投資します。</p> <p>「BGIS グローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ」を主要投資対象ファンドとし、その組入比率を高位に保ちます。</p>
運用方法	ブラックロック・グループが運用する「BGIS グローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ」および「BGF USダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド」への投資を通じて、日本を含む世界各国の配当利回りの高い株式に投資し、継続的な配当収入の確保を目指して運用を行います。
分配方針	<p>月1回の毎決算時(原則として毎月25日。休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買損益(繰越欠損補填後、評価損益を含みます。)等の全額とします。 ■ 分配金額は、委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。 ■ 留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 <p>※基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないことがあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>

(参考情報)

◇代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

* 上記は、2019年2月～2024年1月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

* 上記の騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

* 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

* 各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数(TOPIX) (配当込み)

先進国株……MSCIコクサイ指数 (配当込み、円ベース)

新興国株……MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債……NOMURA-BPI国債

先進国債……FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債……J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

<各指数について>

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有する我が国を代表する指数です。東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) の指数値および東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) に係る商標又は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) に係る商標又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

MSCIコクサイ指数 (配当込み、円ベース) およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発、計算した株価指数です。MSCIコクサイ指数 (配当込み、円ベース) は日本を除く世界の主要先進国の株式を、また、MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は新興国の株式を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権、知的財産その他の一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、日本国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数に関する知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行われるブラックロック・ジャパン株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、新興国の現地通貨建ての国債を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しています。

◇ファンドデータ

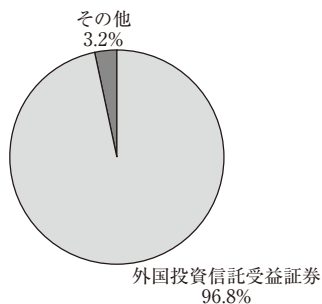
■当ファンドの組入資産の内容

○組入ファンド等

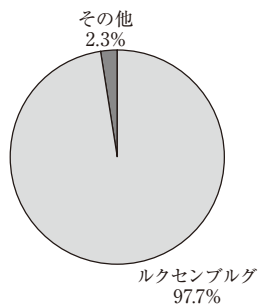
銘柄名	比率
BGIS グローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ	96.8%
BGF US ダラー・ショート・デュレーション・ボンド・ファンド	0.9
その他	2.3

(注) 比率は第219期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

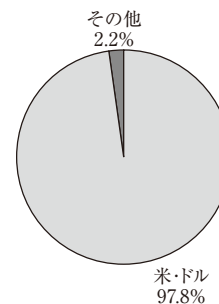
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は第219期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

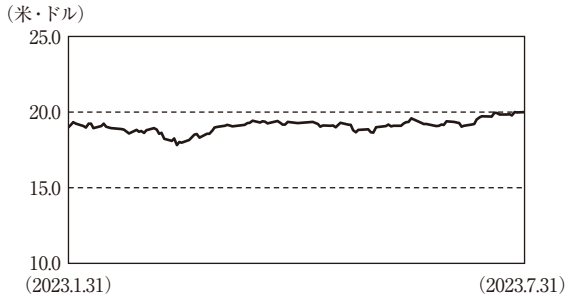
項目	第 214 期末	第 215 期末	第 216 期末	第 217 期末	第 218 期末	第 219 期末
	2023年9月25日	2023年10月25日	2023年11月27日	2023年12月25日	2024年1月25日	2024年2月26日
純資産総額	39,868,984,770 円	41,453,937,110 円	46,423,880,171 円	49,223,585,752 円	52,832,478,590 円	57,055,270,496 円
受益権総口数	30,842,144,154 口	32,972,310,828 口	34,862,791,061 口	37,736,904,824 口	39,035,720,837 口	40,721,974,873 口
1万口当り基準価額	12,927 円	12,572 円	13,316 円	13,044 円	13,534 円	14,011 円

* 当作成期間(第214期～第219期)中における追加設定元本額は15,158,030,798円、同解約元本額は1,963,053,961円です。

■組入上位ファンドの概要

◆BGISグローバル・エクイティ・インカム・ポートフォリオ

○基準価額の推移



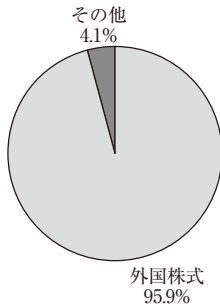
○上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
MICROSOFT CORP	米・ドル	4.4%
APPLE INC	米・ドル	3.5
MONDELEZ INTERNATIONAL INC CLASS A	米・ドル	3.0
ASTRAZENECA PLC	英国・ポンド	2.9
UNITEDHEALTH GROUP INC	米・ドル	2.7
ABBVIE INC	米・ドル	2.7
ACCENTURE PLC CLASS A	米・ドル	2.6
PHILIP MORRIS INTERNATIONAL INC	米・ドル	2.6
SANOFI SA	ユーロ	2.6
ORACLE CORP	米・ドル	2.5
組入銘柄数	51 銘柄	

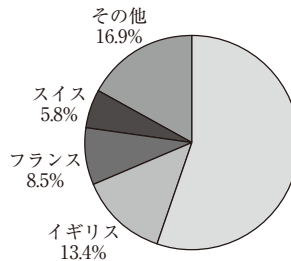
○1万口当りの費用明細

当該情報の取得が不可能であるため記載しておりません。

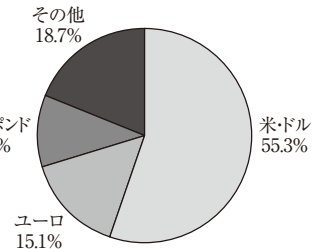
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注3) 「上位10銘柄」、「資産別配分」の各比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。また、「国別配分」、「通貨別配分」の各比率は、組入証券全体を100とした場合の割合です。

* 当社適時開示資料作成にあたり使用しておりますブラックロック・グループのデータに基づき記載しております。上記ファンドの管理会社で作成しているデータに基づく運用報告書(全体版)の参考情報と相違する場合があります。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。